

2014 年 3 月 7 日  
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦  
担当ワーキンググループ主査 二宮 浩輔

コスタリカ国ボリンケン地熱開発事業（協力準備調査（有償））  
ドラフトファイナルレポートに対する助言

**助言案検討の経緯**

ワーキンググループ会合

- ・日時：2014 年 1 月 31 日（金）14:00～15:48
- ・場所：JICA 本部（会議室：1 階 111 会議室）
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、谷本委員、二宮委員、早瀬委員（石田委員、早瀬委員はメール審議にて参加）、
- ・議題：コスタリカ国ボリンケン地熱開発事業 協力準備調査に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配付資料：
  - 1)コスタリカ国ボリンケン地熱開発事業ドラフトファイナルレポート
  - 2)環境影響評価報告書(EIA)
  - 3)補足資料(ステークホルダー協議メモ、水質基準表)
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 45 回委員会）

- ・日時：2014 年 3 月 7 日（金）14:31～17:20
- ・場所：JICA 本部（会議室：113 会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

## **助言**

### **全体**

1. モニタリングの結果、不適合が発見された場合の対応を含めた環境マネジメントの手順（フロー）をファイナルレポートに記載すること。

### **スコーピングマトリックス**

2. パイプラインについても、送電線やアクセス道路と同様の扱いとし、施設の一部としてスコーピング案に明記するとともに、スコーピングを行なった結果をファイナルレポートに記載すること。

### **環境配慮**

3. 工事中、および供用中の鳥類に対する影響が少ないと評価した具体的な理由をファイナルレポートに記述すること。
4. エネルギーの確保と環境保全を両立させ開発と保全のモデルとして積極的に国民の教育にも用いていく観点から、プロジェクト地区に隣接する国立公園の現状（管理能力、予算、集客など）を評価し、国立公園との連携の可能性について検討すること。

### **社会配慮**

5. 本事業の実施において必要とされる土地（生産井・還元井、発電および関連施設、送電線鉄塔などのための）は、ボリンケンホテル、プエナビスタホテルの所有地の一部を取得する予定であることをファイナルレポートに記載すること。
6. 地域経済への影響評価では、以下の対策を検討しファイナルレポートに記載すること。  
自然資源の観光への活用については、エコツーリズムの促進、地域産品の販売促進等を通じて、プロジェクトの開発効果が期待できるような具体的な対策を検討すること。  
自然資源、および自然資源の観光への活用にあたっては、地域住民などのステークホルダーと協力して進めること。

### **ステークホルダー協議・情報公開**

7. すでに行われたステークホルダー協議の内容については、質問とコメントに対応した対策案を明確にファイナルレポートに記載すること。

以 上